

# うえのはら

## 1 2024年の始まり

元日の能登半島地震では、家屋倒壊、火災、斜面崩落、津波などによる甚大な被害と多くの命が奪われました。この状況から命を守る行動を再確認した人も多かったことでしょう。また、2日の日本航空機と海上保安庁機の衝突事故では、日本航空機に搭乗していた379人全員避難という18分間の奇跡がありました。海外メディアは「乗客と乗員の協力が成功した証だ」と称賛しています。学校では不審者対応訓練、地震・火災による避難訓練など「命を守る学習」が行われています。

災害や事故はいつ起こるか分かりません。もしもの時の自分の命を守る大事な経験です。しっかり学び行動しましょう。



また、お互いを助け合いながら、冷静に避難行動することは、学校だけでなく、家庭や地域社会でも必要です。障害のある人、高齢者、外国人、こども、妊婦などサポートが必要な人がたくさんいらっしゃいます。そのことを理解し、日ごろからの交流を通して地域のことを知っておくことが、一人一人が安心して暮らせる社会の実現につながると思います。

## 2 巡回活動中の子どもたちの様子

- 1 一人の児童が、道路中央に落ちていた肥料袋を道路脇に運んでいました。交通の邪魔になるという事故防止の判断と交通量の少ない時間帯に自分の安全に気を付けて行動ができたことに感心しました。(肥料袋は当センターで回収しました。)
- 2 センター職員が、帰宅中の児童生徒に「学校はどうでしたか?」「気を付けて帰ってね。」などと声掛けをすると、「楽しかったです。」などの元気な返事をしてくれたり、笑顔で手を振ってくれたりします。
- 3 自転車で帰宅する生徒が、横断歩道では歩いて自転車を押している姿を見かけます。交通ルールがしっかり守られています。
- 4 横断歩道を渡り終えた後、停車した車に向かって頭を下げる児童生徒の姿を多く見かけます。



## 3 補導活動で気になったこと

市補導員13名とセンター職員は、市内各地を巡回し、気になる児童生徒に指導を行っています。(右表参照)

【令和5年4月～  
令和6年1月の指導件数】

帰宅時刻を忘れ公園で遅くまで遊んでいる児童生徒に帰宅指導しました。また、下校時のヘルメット非着用、特に帰宅後の遊びに行く時のヘルメット非着用が多く見られました。

帰宅指導	25件
自転車の二人乗り	7件
自転車のヘルメット非着用	62件
自転車の並進・無灯火	26件
広がり歩行、斜め横断等	16件
危険な遊び等	6件

昨年10月から1月の主な声掛けは以下のとおりです。

- ① 自転車の生徒に顎ひもの着用をするよう指導した。
- ② 下校中の数人の児童に車道にはみ出さないよう注意した。
- ③ 下校中の生徒に自転車で並列走行しないよう注意した。
- ④ 見通しの悪い交差点で飛び出しをした児童を目撃した際、その近くにいた母親にも危険行為であることを認識してもらえよう話をした。

※ 鹿児島県警資料では、令和4年のSNS等(出会い系サイト含む)に起因した被害者は14人(中学生6人、高校生7人、無職少年1人)でした。SNS等では「甘い言葉」で誘惑する手口で被害にあったと報道されています。日頃から注意しましょう。